

神戸駅周辺地区（神戸駅南地区）下水道床上浸水対策計画

(様式 1)

項 目	内容・施策等
選定理由	<p>神戸駅周辺地区は、平成 30 年の台風 21 号の集中豪雨に加え、潮位の影響を受けたため、緊急輸送道路である国道 2 号の道路冠水や住宅地の床上浸水など大規模な都市機能に影響を及ぼす浸水被害が発生した。本地区は、過去 10 年間に浸水実績があり、内水浸水シミュレーションにより床上浸水被害戸数が 128 戸以上、浸水被害戸数が 296 戸以上のため早急な浸水対策を実施する必要がある。</p>
整備目標	<p>①本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画における対象降雨：既往最大降雨：75.8mm/hr ・目標とする理由：昭和 42 年 7 月に神戸海洋気象台で記録した 既往最大降雨 75.8mm/hr ・ハード整備による整備水準目標：49.1mm/hr(10 年確率降雨) <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：当該計画対象区域に存在する高齢者・障害者等要配慮者関連施設の 3 箇所の床上浸水を防止する。 ii) 都市機能の確保の観点：緊急輸送路の機能保全水深を 20cm と設定する。 iii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。 iv) その他：特になし <p>③ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により、49.1mm/hr の降雨において、浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策および自助 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 75.8mm/hr の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップの作成・公表などの情報提供、などそれぞれの主体が対策を実施することにより、市街地部の浸水深を機能保全水深 20cm にとどめ、被害をできるだけ小さくする。

項 目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	・有（平成 24 年度策定済）			
事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・様式 2 のとおり
			下水道管理者以外	・防潮堤の整備
		ソフト対策	下水道管理者	・内水ハザードマップの作成・公表 ・降雨情報の収集と提供 ・水位観測情報の提供
			下水道管理者以外	・潮位情報の提供
	自助	ハード対策		
		ソフト対策	下水道管理者	・道路部局と調整し、道路雨水ますの維持管理の強化

(百万円)

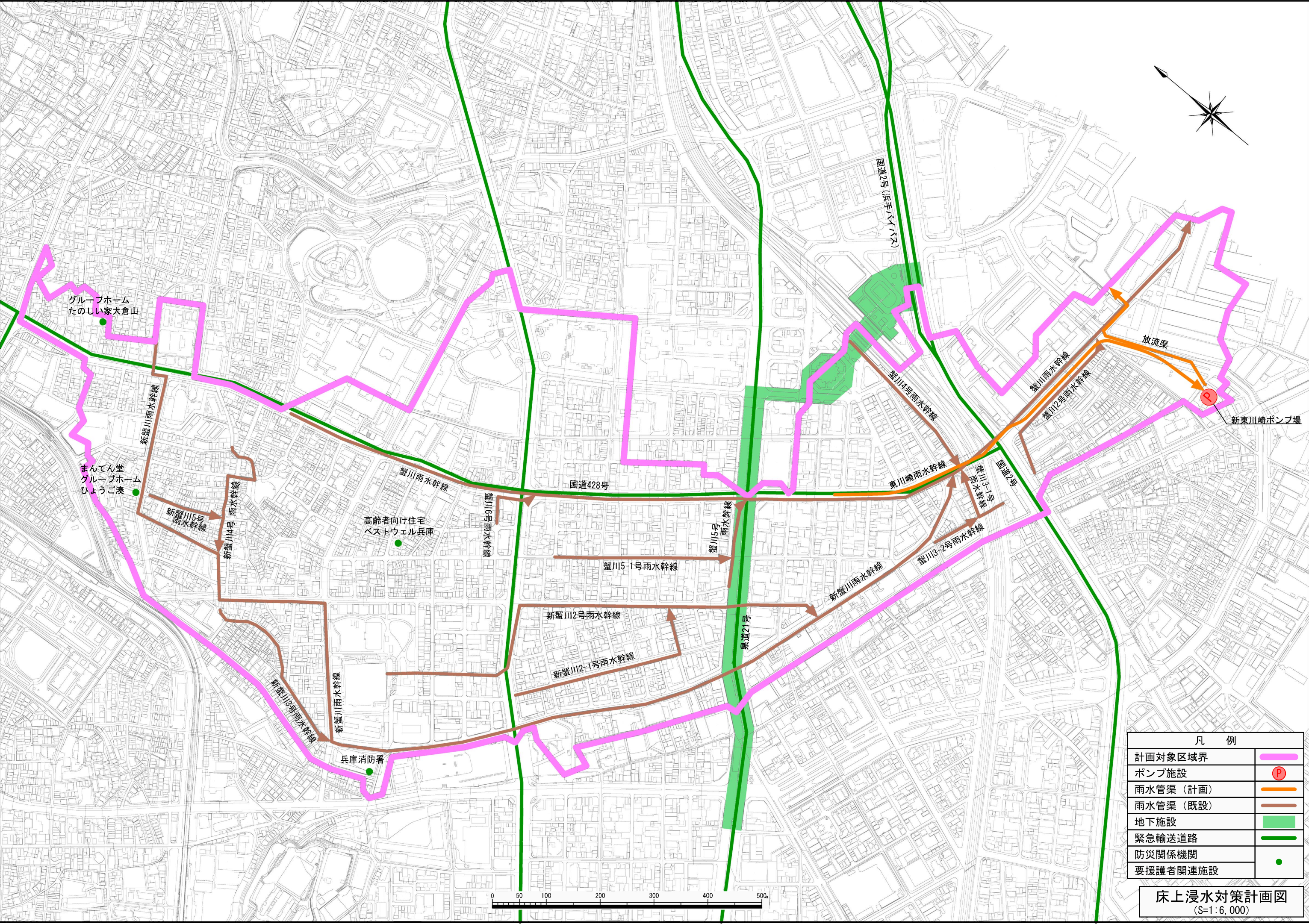
名称	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
ポンプ場建設費	5	622	400	560	1,500	1,166	15	4,268
雨水幹線建設費	5	196	812	1,029	427	320	14	2,803
計	10	818	1,212	1,589	1,927	1,486	29	7,071

項 目	内容・施策等
整備効果	被害額：91,081 百万円が削減される B／C：9.33 経済的内部収益率：32.3% ソフト対策、自助の整備効果等
放流先との 調整状況	放流先の管理者と協議中。
その他	

(様式 2)

管 渠 調 書							
管渠の 名称	排水区 の名称	合・雨の別	主要な管渠 内法寸法(mm)	延長 (m)	概算事業費 (百万円)	工 期	備 考
東川崎 雨水幹線	中部 排水区	雨水	φ 2200	800	2, 811	R04～R08	
放流渠 (新東川崎 ポンプ場)	中部 排水区	雨水	□1900×1900 ～ □5000×2600	340	432	R04～R08	
計					3, 243		

ポンプ施設調書						
ポンプ施設 名称	ポンプ施設 の位置	敷地面積 (アール)	1 分間の揚水量 (立方メートル/分)	概算事業費 (百万円)	工 期	備 考
新東川崎 ポンプ場	中央区 東川崎町	21. 4	344	3, 854	R04～R08	下水排除面積 22. 25ha
計				3, 854		



凡 例	
計画対象区域界	
ポンプ施設	
雨水管渠（計画）	
雨水管渠（既設）	
地下施設	
緊急輸送道路	
防災関係機関	
要援護者関連施設	

床上浸水対策計画図
(S=1:6,000)